

新型コロナウイルスにより教育現場で混乱が続くなか、注目が高まっているのがインターネットを介したオンライン授業だ。一部の学校では教室さながらの実践が行われ、学校再開後も活用は続く見通し。現場を取材すると、オンライン授業の可能性と課題が見えてきた。

5月中旬、私立英理女子学院高校（横浜市）の授業をのぞいた。2年生の古文。南崎徳彦教頭目の前に置かれたノートパソコンの画面には生徒8人の顔が並ぶ。

「さる、はどういう意味かな」。指名された生徒が「しない」と即答。「そう、だからこの文の意味は……」と解説が続く。教室に生徒の姿がないことを除けば、普通の授業と変わらない印象だ。

同校は4月20日からビデオ会議システム「Zoom

## 学校再開後も活用へ



om（ズーム）」を使った授業を始めた。生徒はパソコンやスマホ、タブレットを介し、リアルタイムで授業に参加する。南崎教頭は「最初は映らないように死角に隠れる生徒もいたが最近は慣れてきたようだ」と話す。画面越しに生徒をひき付けるにはちょっとした工夫もいる。教師はオーバークッションを意識し、ゆっくりと話す。生徒にも、理解できなければ首をかきあげるなどのしぐさを求めたという。それでも「対面に比べれば生徒の反応をつかみにく」（南崎教頭）。

## 教室との両立模索

インターネットを通して授業をする（英理女子学院高校）

算で、教育関連の環境整備に13億円余を計上。Wi-Fi環境がない家庭向けに機器を用意する。一口にオンライン授業

聖光学院中学校・高校（横浜市）は新学年がスタートした4月8日から「ウェブ授業」を実施している。もともと英会話学習用に「クロームブック」を全生徒に配布していたこともあり、スムーズに導入できたという。法的な問題もある。後者の場合、グループカレンダーで時間割を共有。集中力を保てるよう通常1コマあたり50分を40分に短縮し、一日のコマ数も減らした。「雑談がない分、進み方は早いくらい」と花家徹副校長。5月下旬には中間試験に代わる到達度試験をネット上で実施した。

導入は自由度の高い私立が先行するが、公立も対応を急ぐ。神奈川県立田町教育委員会は18日から、町内の小中全3校でオンライン授業を始め「む」と口をそろえる。教室とネット、それぞれの特性を生かした新しい学習の姿の模索が続く。

各学校は再開に向けた準備を進める。ただ教育関係者は「終息後もオンライン授業の活用は進む」と口をそろえる。教室とネット、それぞれの特性を生かした新しい学習の姿の模索が続く。

各学校は再開に向けた準備を進める。ただ教育関係者は「終息後もオンライン授業の活用は進む」と口をそろえる。教室とネット、それぞれの特性を生かした新しい学習の姿の模索が続く。